

「日本発」に燃える

ジャーナリスト 大宅 映子さんに聞く

聞き手／関谷 亜矢子

(NTVアナウンサー)

関谷 ICUを卒業されたのは何年ですか。
大宅 一九六三年です。

ICUでの生活

関谷 私は八八年ですから、二十五年先輩ですね。ICUではどんな学生生活でしたか。

大宅 一年生二〇〇人ぐらいしかいなかったわね。女子が三分の一ぐらいかな。私のクラスは二十人ぐらいで、女子が五人。NHKの平野次郎さんは同じクラスだった。二十人しかいないし、かなり仲よかったわね。

一年生の一年間はフレッシュマン・イングリッシュがあつて、ほとんど英語だけだったんだけど、AFSで留学に行ってきた人は英語の実力が違ったね。当時は、アメリカの州で、日本人が数人という状態ですものね。

日本語は一切使えないし。だから、今の一年留学よりうまくなったんだと思うわよ。私の友達にも同時通訳とか、翻訳やっている人が多い。

関谷 留学するおつもりだったのに、お父様に反対されて……。

大宅 そう、させてもらえなかった。いままさに悔やんでいるのね、私。一年間留学し

ていたらね。住んだと住まないのは大きな違いですよ、英語に関していうと。しかもICUに入ったら、英語のほうがうまいといったような人がいっぱいいるわけじゃない。私の学年の総代は、卒業式に英語で答辞をやっちゃったのよ。

かわいそうなのはうちの母で、私が未っ子なんで最後の卒業式だから泣きましょう、と思ってきたら、答辞が英語だったわけ。(笑) それでなんなのこれはって、がっかりしてた。まわりにうまい人がいると、しゃべりにくいもんですよ。それにICUって辞書を引いて、どうとかがつていう教育しないでしょ。大意をつかんで、速く読まなきゃ追いつかないでしょう。英語を恐れはしなくなっただけど、単語が増えた気がしないわね。でも楽しかったですよ。

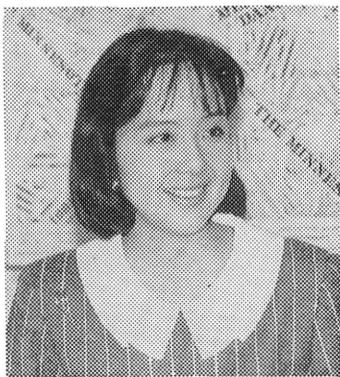
関谷 ICUで四年間過ごされて、後々影響が出ていることはありますか。

大宅 あると思いますね。私はもともと個性を主張するほうで、みんなと一緒のほうに入るっていうことはしない子だけど、それがよけい強化されたと思います。自分で責任さえとれば、何やろうがいいっていうことですよ。日本と日本以外の国の差というのはそこ

おおよや えいこさん



せきや あやこさん



にあると思うわけ。

私は高校時代にロカビリー少女だったけれど、学業をほり投げたのではなく、学業はやったうえでロカビリーをやるのだから文句言わせない。ICUに入って、いろんな国から先生も、学生も来てるし、いかにもみんなが一緒じゃないという体験ができた。日本というのは何しろみんなが同じところを見つけて、会った途端に「学校はどこらですか」「ご出身は」と、どこかに共通点を見つけて、それで「この人とは大丈夫」という関係をつくろうとするじゃない。そういう日本という国と、どこのだれかわからない人ともちゃん

と恐れずに付き合っている、それで社会全体をまとめているアメリカという国は、これは違うわいと思うわね。もともと私はそういう子だから居心地悪くなかった。

関谷 学生時代は楽しかったですよね。

大宅 楽しかったですよ。私はテニス部に入っていて、よく遊びましたね。いまだに「大宅組」とか、親分とかいわれています。

関谷 そのときのお付き合いがいまでも続いているのですか。

大宅 入学二十五周年記念なんていって、戸隠へ一晩泊まりの旅行をしたり……。

関谷 いいお仲間ですね。ずっと共学に通われて、男の子のお友達のほうが多かったと伺っています。

大宅 中学は国立、高校は都立駒場高校なんですけど、女の子のほうが多くて、成績もよくて、男の子は少なくていじけてるというかわいそうなパターンだったから、私は男の子たちの親分をやったわけ。

女だ男だの意識は

関谷 女だ男だを意識されなかったのですか。

大宅 ですね。高校もだいぶん影響ありますね。男と同じにしてくれて叫んでいる女の子たちっていっぱいいるでしょう。あの人はいい男に出会わなかったか、女だからって虐げられてきたわけよね。私は女だからって虐げられたことはないから。

関谷 うらやましいというか、たぐいまれという感じがします。

大宅 男と同じレベルまでいったって、うれしくもなんともないじゃない。女は女で男と違うんだから、男と同じことやっただけじゃ必要十分ではないと思ってるわけ。

関谷 違いを認めなければいけないわけですね。

大宅 それぞれのよさを生かして、はやり言葉じゃないけど、共生するのが大人の社会でしょう。

関谷 ということを私ぐらいの年齢になって、気づくと思うのですが。

大宅 中学ぐらい、もつと小さかったかもしれないですね。とっても変な子だったと思う。なんでも一人で決めて一人でやっていたから。末っ子だったせいもありますね。小学校四年生のときに小津安二郎の映画を独りで見に行っちゃったり。(笑)変なやつよね、考えてみたら。

関谷 小さいころから自然に自立していたのでしょか。

大宅 そうですね。末っ子というのもすごく楽だったし、女三人目でもう勝手にしろというスタイルでしたからね。

関谷 お父様が男のお子さんを最後にもう一人、なんて思っていたらお嬢さんで。

大宅 お気の毒に。

関谷 でもやっぱりお父様の影響は大きいでしょうね。

父、大宅壮一の影響

大宅 そうですね。一緒にいる間とか、若い間はわからなかったですけど。私のものの見方は、親父の影響を知らず知らず受けていますね。

自分で自分を褒めるのは変だけれど、ここはこつちがゆがんでいるぞ、こつちもこつちゆがんでいるぞという総合判断が、私は自然にできる。どうもできない人が世の中にいっぱいいるらしいから、これはたぶん、親父からもらったものだろうなと思いますね。

関谷 お父様はバランスのとれたものの方をしていらつしやったなと思われませんか。

大宅 うちでは新聞を六紙くらい取っていました。同じ事件をこの新聞はこう書いてるけど、これはこんなふうに書いてるぞと、何かのときに言われた覚えがあるんです。普通の家だったら新聞は一種だろうから、書いてあったことはまず信じるでしょう、私は信じないもの。全部自分の目で縦横斜め見たうえで、この辺が合ってるんだろうな、と考えるわけ。親父が新聞だの雑誌だの、赤鉛筆持って線引きながら読んでるのを見ていたし、活字の中

のありとあらゆる高等なものから、変な汚い情報まで全部うちには入ってて、どうぞご自由に、と見せられていたし。

関谷 子供から隠そうとなさらなかったのですか。

大宅 なしなし。いいテレビだけ見せようというのは全然ダメ。変なものを読むから、いいものと悪いものの区別がつくようになるんで、それを判断力つていうのよ。変なものや、危険とか誘惑とかが世の中にはあるんだから、なるべく早く早く体験させて免疫をつけさせて、自分で拒否するようにさせないと。それが自立でしょう、一人前の人間の。

関谷 お父様は、そういうものにお子さんをさらしていらつしやったのですか。

大宅 そうそう、野人ですから。

関谷 雑草教育というふうにおつしやっていますよね。

親父の存在

大宅 育てられてるときは頭にきましたね。自分が手をかけられないことを正当化するために言ってると思ったもの。全部母任せて、何もしていないんだから。でも親父って悲し

い存在なんですよ、たぶん。いることに意味があるの。それらしい電波を醸し出していれたい。「お前をこへ座れ」と言っただけ、人生の訓を垂れたりする必要はないですよ。きっと親父の存在なんか、死んでからじゃないと正しく評価されないとと思うのよ、かわいそうだと思うけど。

私たちが「うちには親は母親しかいない」みたいなことを言ったら、親父はすごく悲しそうな顔してたけど。

関谷 お父様と論戦を張れたのは、お子さんの中でも大宅さんだけだっというふうに伺っていますか……。

大宅 まあ末っ子だからね。

関谷 そういう中でICUを選ばれて、卒業されたわけですが、なんにも疑問なく働こうと思っただけじゃなかったのですか。

大宅 何しろ自分の食いぶちは自分で稼がなければいけないと思っただけ。でもなかったのよ、就職口が。それで大学院へ籍を置いたの。何しろ籍がないと格好が悪いじゃないですか。だけど三カ月でやめちゃった。

関谷 それで、PR会社でアルバイトを始められたのですか。

仕事と家庭

大宅 就職口を探していたときに、アルバイトでよかったですよと言われて。

関谷 そこで活路を見いだされたのですか。ご自分がよく生かされる部分をかき分ける能力に優れていらつしやいますね。それから二十三歳のときにご結婚されました。

ご主人は、女性が働くことになんの違和感もなく、自分のことは自分でおできになるそうですね。

大宅 お母さんが偉かったんでしようね。

関谷 女性が働くということが珍しかったところに、結婚しても仕事を続けられたんですね。

大宅 結婚して辞めるかという話は一切出なかったのよ。たまたま波長が合うから結婚することに決めただけで、私は会社へ入ったばかりだったし、辞めると言う話は全然なかった。ただ疲れましたね。仕事も、結婚生活も新しいわけ、本見ながら料理はするわ、掃除はしなきゃいけないわ、洗濯機回さなきゃいけないわって。くたびれ果ててしまいました。

関谷 関谷 家事は大宅さんがなさったのですか。大宅 そう、ちょうどそのころ共稼ぎ論が

出始めて、「月水金は私がやるから火木土はあなた」という分担論があつたんだけど、「お手伝いしていただいて、仕事と家庭が両立する」なんてイヤだと思つたから、私がしましたよ。明治の女から育てられたのを引きずつてるから。そのかわりご本人が自らのご意思でお手伝いくださる分には、ありがたくお受けする。でも「私だって仕事をしているんだからあなたの手伝いは当然よ」っていうのはイヤで、余力があるから仕事をするんだというふうに思いたかった。

関谷 この間の「国民生活白書」にも不思議なことに、夫の条件に家事ができることを挙げている女性って少ないです。女性が働きたいという意識はすごく高いけれども、男性に家事を求めているんですね、本音の部分では……。

大宅さんは、お子さんも育てながら、しばらく専業主婦になられたのですが、まだお子さんが二歳ぐらいのときに会社をつくられたのですか。経営者でもあり、お母さんでもあり、奥さんでもあるわけですが、どうやってマネジメントしていらつしやいますか。

優先順位とバランス感覚

大宅 それはですね、優先順位ということ

ですよ。日本の場合、優先順位というのと、いほうだけ取って、あとは捨てるというような感じになるでしょう。そうじゃない。やりたいことがたくさんあるならば、そのときどきで擦り合わせるの。子供が小さいときは親として扶養の義務があると思つて、いますから、母さんが一番ですよ。いまでもそうです。基本的には。気持ちのうえては私の役は母さんだと思つています。子供たちは「大きなお世話だ」つて言いますけどね。親はなくても子は育つと本人たちは思つてるみたいよ。

関谷 その当時は、お母さんの部分が侵されるようになったら、それ以上のことはなさ

らなかつたのですか。

大宅 子供が小さいころは、基本的には夜に仕事はしないと決めていましたが、座談会などの仕事が入つてしましますよね。週に二回ぐらいは書き置きをして出ていっても、子供たちの顔つきは変わらないけれど、三回目ぐらいになるといやーな顔をするわけ。これは夜に仕事を入れられないな、と感じ始

めたら、「ごめんさい」と断る。

仕事を受ける時点で、そのときの一番大事なものを侵す危険性があるほどのことはしないという優先順位ですよ。

関谷 バランス感覚で判断されたのですね。
大宅 テニスをやめて三万円もらうよりはテニスのほうがいいと思うから、基本的には土・日は仕事をしません。私が過労死するまで働いたつてだれも褒めてくれるわけじゃないでしょう。

関谷 スーパーレディーといわれるのは嫌だとおっしゃるけど、仕事もでき、お子さんも育てていらして、すべての役割を楽しんでやつていらつしやる点がうらやましいと感じるところですね。それを可能にするには、考え方を変えないといけないでしょうね。

大宅 私は、女の人が社会へ出ていくのは大賛成。亭主一人と子供一・五三人のために人生八十年分のエネルギーを使えるわけがないから、何か社会との接点があつたほうがいいと思う。問題はその働き方。男と同じ働き方をして、総合職になつたら過労だというのは、バカげてると思うわけよ。男の働き方がおかしいじゃない。五時から働くのはやめて、五時には帰れるようにしましようよ、という

パワーになつてほしい。それを声にするためには、数が必要なんです。働きづめに働いて、退職したとたんに、産業廃棄物だとか、粗大ゴミだとか、ぬれ落葉だとか、ワシ族だとか、言いたい放題言われるなんてあまりにも寂しいじゃない。いまの状態はあまりにも会社に縛られていると思う。これを、時短と称して労働省が旗を振るというのは、私に言わせるかどうか考えても変です。「地域でこういうこともやりたいし、子供とこういうこともやりたいのに、会社に拘束されていてできない。しかも月給が十分ではない。交際費はいららないから、給料を倍にしてくれ」という声が、労働者の側から上がつてこないのが私は、いいと思議。なんです。

第三次行革審の専門委員になつて

関谷 そうですね。ところで、第三次行革審の専門委員になられましたね。もう私なんか大変期待をしております。

大宅 ほとんどむなしなんですよ。諸悪の根源は、お上の大きなお世話だと私は思つていますが、こちらの生活者も悪かつたの。お上がいいと思うものを、いいと思う数字のと

ころに並べてくださいと頼り切ってきたわけだから。それがいろいろなあかになってしまった。本当に生活者のためを考えてお上というのではないんですよ、私に言わせれば。文部省は生徒のことを考えているのではなくて、学校の運営と先生の処遇を考えている。厚生省だって患者のことを考えている。豊かさを実感できない構図になっていて、よっぽど数多くの声を出さない限り変わらないでしょうね。行革審といっている、役所はいままでもっている既得権を捨てるということとはあり得ない。

関谷 生活者としての目を生かしながら、風穴をどんどん開けていってほしいですね。

大宅 豊かさの実感というのは何かと言ったときに、数字とか金とかそういうものじゃない。そういう数字に現れないところにある。季節感とかね。それなのに季節感を取って、一年中ナスやイチゴが手に入るといふことがいいもんだと、やってくれちゃったわけですよ。曲がったキュウリもダメ。確かに曲がったキュウリを並べたら買わないらしいのよ、消費者が。

関谷 そうなんですってね、買わないから

まっすぐなキュウリを作るんですよ。

大宅 スーパーに並べる前に、どれだけコストがかかると思う。いかに手間と無駄をやるか。割りばしどころの話じゃないですよ。

関谷 先ほど、数のお話がありましたけれど、アメリカには、女性があと何人いなければいけない、何%いなきやいけないという、いわゆるアフアマティブ・アクションがありますね。

大宅 私はあれは賛成じゃない。逆差別だと思ふ。アメリカの活力を阻害した一つの要因。だって、女性だからということだけで明らかに劣っているのを持ち上げなきやいけないというのは、やっぱり変ですよ。

関谷 能力のない人が登用されて、やっぱり女はダメだと言われてしまうわけですね。

大宅 政府の審議会等が、女の人を一五%入れようといつて旗印を挙げているわけです。私は「婦人問題行動推進計画会議」の参与になったの。でも、この女性のこういう経験とか知識とか判断力が必要で、この審議会とって有用だと思うから、入ってくださいというなら話はわかるけれど、生物学上女だから入ってくださいというのはおかしい、それ

上の差別はないと怒ったわけ。「女ならいいんですか」と言ったら、「そうだ」と言つたのよ。

関谷 そんなことを言う人がいるんですけど、大宅 いたんですよ。バカバカしい話がいっぱいあるけれど、おしなべて一五%女を入れるという話は、私はどうしても納得がいかない。私たちより一つ前の世代の人たちは、男と女と分けて教育されてきているから、男

並みという人が多いのね。どうしてあんなふうに言うんだろうと思ふわけね。そんな言い方は、男の価値基準に引きずられてると思ふ。私は、「男と女は違うじゃない」と言つたのよ。男はどう逆立ちしたって人間製造できないし、しかも本当に自分の子かどうかわからないのを育てているんだから、気の毒な動物だと思ふわよ。(笑)

関谷 アメリカだと、逆に小さいころから違ふということを持た込まれますよ。でも機会は平等に与えられます。その中でどういう結果が出ていくかが問題なんですよ。

大宅 教育の場が仲よしごっこをやっているから、困るよ。日本が世界に貢献するとか、共に生きるとか、スローガンは立派だけれど、本当に何ができるかといつたら、なんにもことを明確に言っていないし、言えないし、

リーダーはいないし。いまのままの教育制度
だったらリーダーなんか出るわけないもの、
出たらつづされるんだし。

いまの大学は

関谷 いまの大学に対してはどういうふう
に思われますか。

大宅 大学は最悪でしょう。能力的にも、
施設の面でも。昔に比べて教育に関しては、
全くインフレです。

関谷 教育のインフレ、そうですね。

大宅 明治の活躍した人はすごいじゃない、
エリートだったんですよ。でも、エリートな
んで言っただけで、冗談じゃないという変な
平等主義が続いてきたわけ。でもエリートを
育てないと、責任ある国家運営をする人た
ちが出てこないのよ。

関谷 いまの大学に、提言、あるいは苦言
などおありですか。

大宅 もう大学まできたときじゃ遅いから
ね。小学校から変えてもらわないと。大学が
なんのためにあるか、なんのために親が子供
たちを無理して大学へ行かせるのかというの
も考えたほうがいいと思う。昔は大学の先生

はちゃんと尊敬されたんですよ。いまや数は
増えちゃったわ、ろくでもないのが大学の教
授になってるわ、そうすると尊敬もされなく
なっちゃうでしょう。尊敬されるべき職業と
いうのはあるはずなのよね、看護婦さんとか
お医者さんとか警察官とか。それがみんなサ
ラリーマンにされてしまったでしょう。先生
だってどう育っていくかわからない子供たち
をお任せするんだから、もっと給料も払わな
きゃいけないだろうし、待遇をよくして盛り
上げていくようにしないと。そうすれば、ち
やんと責任をもつてやってくれるものだと思
う。

関谷 大変なだけで、尊敬されなかったら
なり手がいないですよ。

大宅 結局、企業へ行ったほうが給料も多
いわ、処遇もいいわって、そちらへいけない
人が先生になっているんじゃないわ
けないでしょう。そのよくない先生たちをど
うにかうまくやろうとすると、全国統一で管
理するという話しかなくなっちゃう。そうす
ると文部省がしやしり出る。ほんのちよつ
とていいから、エリートとか、変わったやつ
とか、面白いやつとか、できるやつを認めて、
皆で伸ばすようにしないと。

関谷 お話を伺っていると、エネルギーを
すごく感じます。お嬢さんにとつては、誇ら
しいお母さんでしょうね。フアッションでも
おしやれでいらつしやいますし。

大宅 娘たちはそれが一番うれいみたい
ですよ。お母さんからいい影響受けたことは
なんですかと聞かれて、おしやれだと答えた
んですって。もうちよつといいこと言つてく
れないって言つただけだ。(笑)

関谷 楽しんでいらつしやるんですか。

大宅 スタイリストをつけているんですか、
と言う人がいるけど、こんな楽しいこと人に
任せられませんよ。自己主張の一つだからね。

女性と結婚

関谷 結婚に関しては、九割の女性が結婚
したいと思つて、子供も欲しいと思つてい
るんだけど、実際は生んでも一人、逆に生
まない、結婚もしないという人が増えていま
すね。少子社会なんていわれています。最近
の女性と結婚についてどう思われますか。

大宅 客観的に見て、結婚したほうがよく
なるということがない。給料は全部使つて好
きなことができて、海外旅行だつて行けるの

に、そういうのを全部捨ててどうしても一緒にいたい男がいらないんだから。それはしないだろうなと思います。経済審議会で、男に魅力がなさ過ぎるからだと言いましたよ。子供は生んでくれないと困るから、育児手当を五〇〇〇円増やすなんて、冗談じゃない。五〇〇〇円増えたから子供を生むなんていうものじゃないでしょう。この人の子なら生みたいと思うから生むのよね。私は結婚しないで独りて生きていくほど、自分が強いと思えないから結婚したけど、先ほどのお父さんの話と同じで、亭主もいることに意味があるんですよ。何かあったときに相談できる相手がいるかないか、というのは大きな違いです。友達でもいいという人はいるかもしれないけど、ちよつと違うだろうなと思うからですよ。四十になろうが五十になろうが、私は独りて生きていきますというだけの自信がある人はいいんだけど。だから、結婚する気があるなら、しないで頑張ってるよりは、したほうがいいですよ。

関谷 仕事の仕方についてはどうしてしよう。
大宅 ある時期、仕事の道が細くなつてもしょうがないと思う。ただ、全部切っちゃうと社会復帰することがすごく難しいから、ち

よつともいいからつなげておくといいでしょうね。そうすると戻りやすいですよ。形を残しながら、もとの社会的な何かとつながってるというのはいまでは家にある、という選択が二つになるぐらいまでは家にある、という選択があっても私は別にかまわないと思う。子供にとつてもいいだろうし、いまなら戻れるようにやってくれている職種も、会社もあるしね。妻と仕事は両立するんですよ。問題は、母さんと子供なんです。子供というのは扶養しないと、少なくとも一年間はでしょうもないわけだから。最近はお母さんに預ける人が多いけれど、施設がもっと充実してくれないとダメね。

関谷 女性が望むことのトップは保育施設の充実と、労働時間の短縮でしたが、確かにそうですね。

大宅 パートタイムがダメだとダメだと言う人いるけど、あれは女性側のニーズに合った働き方なんです。フルタイムじゃないとともな就職じゃないみたいなのは私はとらない。ただ、権利はある程度保障しておいてもらいたいと思う。逆に働く側の意識を変えてもらいたいのは、一〇〇万円以上稼ごと扶養家族から外されるからといって、九十何万

円で働くのをやめるといふ根性はやめていただいて、一〇一万円働いて税金払うというぐらいいやないと、女の人が社会へ出ていった意味がないと思うのです。

今後のプラン

関谷 最後に今後のプランとか、夢をお聞かせください。

大宅 日本発の情報なり意見なり、説得術はどうしても必要だと思つています。情報量からいって、日本はいまだに輸入するところから考えて、よそはどう見ているか、みたいな。テレビなんかを見ていていつもイヤだなあと思うのは、日本の国の問題なのに外国人を呼んできて、外から見えてどう思いますかと必ず聞くでしょう、あれは恥よ。なんてそんな大事なことを外国の人に聞くかね。もつと日本発をもつて外へ行きたいわけ。

関谷 いろいろとそそのための蓄積をされているわけですね。同じ女性として、いつも目標にしている方ですので、期待しています。

大宅 そちらこそ頑張ってください。

関谷 どうもありがとうございます。
(一九九二・十一月十六日 大宅映子事務所)